

秋 田 県  
公害技術センター年報

第 2 号

昭和47.48年度



秋田県公害技術センター

## は し が き

当秋田県公害技術センターが発足して、以来4年を経過しました。この間、昭和48年6月には新庁舎が現在地に完成、同時にテレメーターが運転を開始しました。更に同年末には水質モニター装置が完工するなど、あわただしい中にも着々内容が充実されて来ております。

この間に、本県の公害問題の様相も変つて来て、新設の製紙工場の臭気問題、秋田湾の着色水帯の問題、稲わらスモッグ、水田の汚染地域の新たな発見など多くの問題が提起されました。一方全国的な問題としては、PCB汚染、魚の水銀、土壌中の銅の基準設定、大気汚染の総量規制問題など、対応すべきものが毎拳にいとまのないほど出ております。

前回、昭和45・46年度公害技術センター年報を発刊してから後も、当センターでは引き続いて上記の山積した問題に対処するために日夜大わらわの活動をして来ました。47・48年度の業務も相かわらず分析試験のルーチンワークに追われて、研究業務に係わるものについては、微々たるものしかありません。

こうした現状のもとに、47・48年度の年報をとりまとめました。内容もいたつて不備ですが、将来、当公害センターの行つて来た仕事をふりかえつて考え、又集積したデータを使つていろいろ研究、解析をするとき、これがその基礎として役立つことを、又部外の皆様が、データ面から秋田県の公害の外貌をうかがい知るための一助ともなれば、幸いと存じます。

昭和49年12月

秋田県公害技術センター所長

丹 内 信 夫

# 目 次

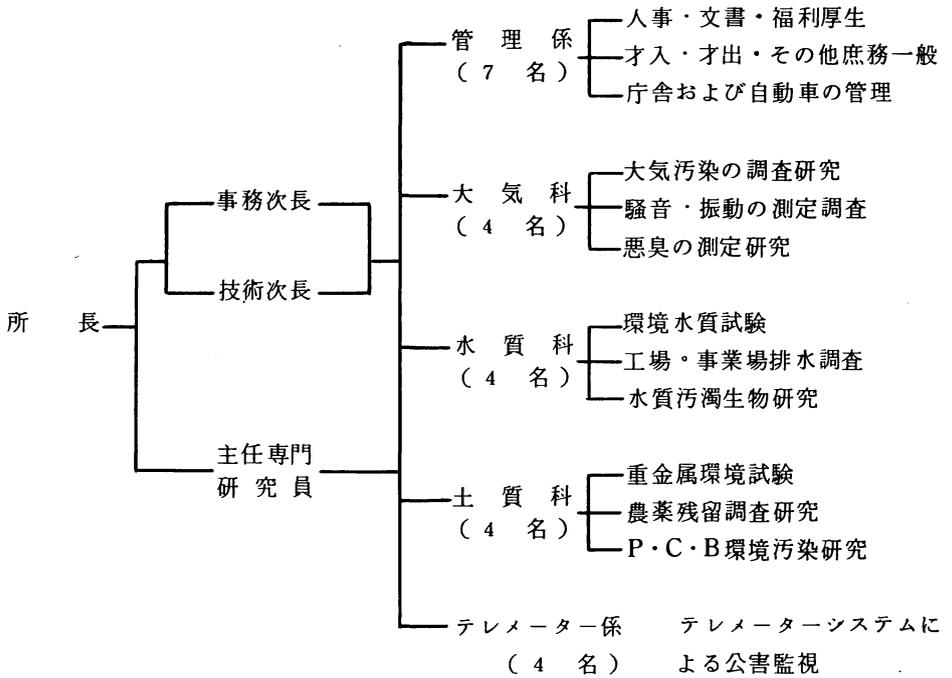
は し が き	1
I 沿 革	4
II 組 織 機 構	4
III 業 務 の 概 況	
A 大 気 汚 染、悪 臭 及 び 騒 音 振 動	5
1. 二酸化鉛法によるいおう酸化物濃度	5
2. 降下ばいじん	8
3. 浮遊粉じん	17
4. ばい煙発生施設廃出基準調査	35
5. 燃料中のいおう分調査	38
6. 公害測定車「おおぞら号」による大気汚染及び騒音調査	40
7. 悪 臭	52
8. 騒音、振動	61
B 水 質 汚 濁	63
1. 環境水質汚濁	63
河 川	63
湖 沼	64
海 域	65
2. 工場事業所調査	109
3. 魚介類調査	176
C 土 壌 汚 染	183
( 4 7 年 度 )	183
1. 環境汚染調査	183
2. 角館町雫田地区圃場整備事業に関する調査	188
3. 西仙北町杉沢柳沢地区の地域指定に伴う容土用土壌の調査	190
4. 尾去沢町県道敷及び田沢湖町林道敷のズリの影響調査	190
5. 休廃止鉱山調査(ひ素関係)	192
( 4 8 年 度 )	193

1. 西仙北町農業利水定期調査	193
2. 小坂町重金属環境汚染調査	199
3. 畑地土壌改良実験事業に伴う調査	202
4. 能代市中川原地区重金属汚染調査	203
5. 米代川流域重金属汚染調査	206
6. 環境汚染調査	209
7. 秋田製錬(株)周辺重金属汚染調査	213
8. 48年度土壌細密、概況調査	216
9. 秋田市川尻地区産米カドミウム汚染原因調査(重金属汚染調査委員会)	223
10. 平鹿地区における48年産米等重金属汚染調査	227
11. 残留農薬、PCB調査	234
12. 稲のカドミウム吸収機構に関する研究	266
<b>D 公害の常時監視</b>	<b>273</b>
1. 概 要	273
2. 公害テレメーターシステムの設置	279
3. 気 象	284
4. 溶液導電率法による二酸化いおう測定について	294
5. 二酸化いおう濃度と風向の関係について	308
6. 浮遊粉じん濃度測定について	311
7. 自動車排出ガス測定結果について	334

# I 沿革

- 昭和45年7月 秋田県公害技術センターの設置  
大気科、水質科の2科を設置  
設置場所：秋田県工業試験場内
- 昭和46年5月 土質科を増設3科となる
- 昭和48年4月 管理係、テレメーター係を増設3科2係となる
- 昭和48年6月 現在地に庁舎竣工移転

# II 組織・機構



# 職員数

職 種	吏 員		そ の 他	計
	事 務	技 術		
行政職	5		3	8
研究職		19		19
計	5	19	3	27